

## 最終評価結果の概要

2006 年度実施した最終評価の対象は、2007 年 3 月をもって研究期間を終了する 2003 年度に採択された7件のプロジェクトおよび 2004 年度に採択された6件のプロジェクトである。

プロジェクトの内訳は、大型研究費を伴う研究(タイプⅠ)8 件、萌芽的研究(タイプⅡ)4 件、および知の体系化・総合化をめざす研究(タイプⅢ)1 件である。タイプⅠ以外の研究プロジェクトには、高等研究院から研究費が支給された。

高等研究院会議メンバー(院長・副院長・専任教員・運営推進委員計 12 名)は、高等研究院教員から提出された最終評価書に基づき、2007 年 2 月および 3 月に書類審査およびヒアリングを実施し、これを踏まえて最終評価を行なった。

タイプⅠおよびタイプⅡはすべて理系の研究プロジェクトであり、いずれも研究の達成度は極めて高く、また社会的貢献も顕著であった。研究成果も一流国際誌や国内外の学会等で活発に発表されている。これらの研究には、その学術的意義が国際的にも極めて高く評価され、当該分野の飛躍的発展に大きく寄与したもの、実用化や工業化への発展に大きな期待が寄せられたものがあり、本学の高い学術を象徴する研究として高く評価されるものである。またタイプⅢにおいては、ソーシャルの草稿に埋蔵されている思想を生成批評の手法で解説しようとする野心的な試みがなされた。

全体としては、どのプロジェクトも本来の趣旨に沿った研究を展開し、研究内容、研究成果、学内外への発信について達成度はいずれも高いものと評価した。高等研究院が配分した研究費の使用に関しても各プロジェクトとも概ね適切に使われたと思われる。その一方、プロジェクトによっては、ゴールを目指して更なる展開が望まれるもの、あるいは研究内容が申請した研究タイプと若干合致しない部分があったものもあった。

本最終評価は高等研究院としては三度目にあたるものであるが、評価の対象になった高等研究院教員に対しては、昨年同様、個別評価書を送付した。